

## 国際標準

よくある誤解・勘違いに、国際標準の方が国内標準よりも要求レベルが高いというのがある。何を言っているのかわからないかもしれないが、国際相互認証のことである。例えば ISO とか HACCP などがそれだ。私が関係したものとしては、大学レベルの技術者教育の認証（日本では JABEE）があり、今かかわろうとしているものにはエコレベルの MEL ジャパンがある。国内的な認証が国際的に有効性を持つためには、それぞれの国内的な認証を相互承認して、国際的な共通性を持たせる必要がある。そのために濃くして金標準が必要になる。おそらく勘違いが生まれるのは、例えば、陸上競技などでは、県レベルの記録よりも、全国的な記録の方が高く、世界記録の方が国内記録よりも普通は高いということがあるのだろう。たしかにそうだが、実際に使われる商品やシステムの認証で、国際認証は国際認証よりも必ずしも高くない。例えば、技術士だが、日本の技術士の試験は不必要なまでに問題が難しく、技術士のレベルが高い。そうでなければ、日本の技術がこんなに発達するはずがない。食品安全については、EU の HACCP の基準が高いという話がある。私はセネガルで EU の HACCP の認証を受けた食品加工と流通の会社を見たが、それほど高い基準で衛生管理がされているとは思わなかった。おそらく、日本国内で高い基準だということにしまっているのである。国際基準がそう高くできないのは理由がある。国際基準というものは、国際的に広く普及しないと意味をなさない。世界にはいろいろな国があるから、あまり基準を高く設定すると、多くの国がその対象から漏れてしまうので、ある程度レベル以上の国が参加してくれるレベルに基準を設定しなければならないのだ。平均レベルを排除するような基準を作れるはずがない。

もう一つの勘違いに、基準のレベルが低い場合は、その認定のプロセスもいい加減だというのがある。基準のレベルの高さと、認証プロセスの厳格さは別の問題だ。どんな認証もその認証プロセスは厳格で揺るぎがないものでなければならない。そういう意味では、ユネスコの世界遺産認証のような、ナントカ認証のほとんどはいい加減で、どのようなプロセスで認証要求の内容の妥当性が検証されているのか全く分からない。認証過程で使われた資料の妥当性などほとんど検討されていない。あんなものに権威を与えてはいけない。また、教育認証、エコラベルの認証などでも、その認証プロセスは、厳格で、証拠主義に基づいて、プロセスの記録を残し、厳格に基準が適用されなければならない。日本国内の認証では、このプロセスが不明瞭にして、わざわざ疑念が生じるようなものが見られる。

信頼とは、レベルの高さではなくて、そのプロセスが透明で揺らぎがない厳格さによって生まれるのだ。